伊勢の伝統文化を伝える

伊勢の町衆がその時代ごとに、誇りをもって伝え継いできたことがうかがえます。 き手の衣装…今も昔も変わらないところや現代とは異なる奉曳の様子は興味深く、 500年以上の歴史がある伝統行事「お木曳」。四十二本の御用材を積んだ車や曳



税金代わりの労役奉仕から

をかけながら綱を曳き車を運行します。 りに御用材を載せて、「エンヤ!」の掛け声 され、独特の様式の大きな奉曳車や木そ 宮の旧神領民〜現在は全市民)により 俗行事「お木曳」は国の無形文化財とし て指定されています。 御遷宮諸行事のひとつである伊勢の 地元伊勢の町衆(神

行事は労働作業だけではなく、お祭りに 近い特別な意味を持つ民俗行事となって 奉仕でした。近世に入った頃には、すでに 戸時代は、神宮領の住民(神領民)の労役 搬として律令制下の課役から始まり、江 いったといわれています。 その歴史は、御遷宮のための御用材の運



御樋代木奉曳式 山口祭、木本祭、御杣始祭

お木曳行事/第一次

お木曳行事/第二次



知っておきたい、 伊勢のっ

編集発行・伊勢御遷宮委員会

電話0596-25-5215

伊勢市岩渕1-7-17(伊勢商工会議所内)

「伊勢 神話への旅」ホームページ http://www.isesengu.jp

神宮のお祭りは一年を通して米づくりと共にめぐります

命の糧、稲の実りに感謝し、豊穣を祝います

収穫を感謝してお祭りを

絶やすことのないよう、「神嘗奉祭となったこともあり、本流を 祭りである神嘗祭を町々の会式から、神宮の一年で一番大きなお 元々は神嘗祭のお祝いが由来と 国で10月15日・16日周辺にたく 祝祭」として実施しています。全 在は「おおまつり」が土日の市民 祝行事の伝統となりました。現 でお祝いしていました。1895年 なっている場合が多いのです。 さんの秋祭りが行われますが、 れは平成まで続く伊勢市民の奉 として開催するようになり、そ という名称で、まち全体の祭り (明治28年)には、「おおまつり 神領とされていた伊勢では昔

神嘗祭を重ねて、御遷宮

稲穂を天照大御神に供する、 神嘗祭は、その年収穫され

> を奉り、命の源であるお米が収穫 儀。大御饌(=神様のごちそう) できたことを神に感謝します。

年遷宮です。式年とは何年に一度 年目を「大神嘗祭」…それが式 遷し=御遷宮となるのです。 すべての社殿なども新調され、宮 目の実りを迎える大神嘗祭に、 という決まりのことで、繰り返し 正月とも言われ、神嘗祭をもって 新、それが毎年繰り返された20 年ごとに神事にまつわるものを く「常若」の考え方から、20 それは「神嘗正月」、神宮のお することで永遠に伝えて

0) てきた伊勢の民は、神嘗祭のお祭 ないでしょうか。神宮と共に生き とともに生き、稲作を中心とす りにあわせ収穫を感謝し、五 への「感謝」と「祈り」の様式では とってもすんなり理解できる神様 る古来からの日本の生活文化そ ものであり、それは現代人に 神宮のお祭りの多くは、自然 榖

豊穣を祈ることを当たり前に続

の御田で作られた御初穂も神宮 に奉献されます。 神嘗祭には、天皇陛下 -が皇居

新嘗祭と大嘗祭

神宮でも新嘗祭が行われます を捧げ、収穫を感謝し新穀をお 行事のひとつです。天皇陛下に ですが、もともとは主要な宮中 新嘗祭は、現在の勤労感謝の よって皇居にて斎行され、御初穂 そして11月23日に行 し上りになります。その日は n

であったことがよくわ 神が国を治めるものに託 の新嘗祭は「大嘗祭」といい、皇 いわれる稲作が国づくりの根幹 える神話の時代から、天照大御 儀式です。日本のはじまりを伝 位継承に伴う一世に一度の重要な 室の長い伝統を受け継いだ、皇 また、天皇が即位の後、初めて

次のお木曳はいつ?

御遷宮のお祭りが始まります 8年後(2025年)には次の

行事「お木曳行事」です。 仕、その翌年から2年が伊勢の民俗 への準備はすでに進められていると もいえますが、御用材を伐りだす 山口祭」が御遷宮諸祭のはじま 曳式」が伊勢の民の最初のご奉 となります。その年の「御樋代木 第62回式年遷宮から早4年、次

2026年 (御用材を神宮へと運ぶ行事のはじまり

2005年 御樋代木奉曳式

